

JASMA 会報

2018年1月発行（季刊）一般社団法人日本縫製機械工業会

CONTENTS

新年ご挨拶	1
年頭に寄せて	2
新年賀詞交歓会開催される	3
JASMAセミナーを開催	3
外部技術視察について	4
第38回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール入選作品決定	4

新年ご挨拶

一般社団法人日本縫製機械工業会
会長 眞壁 八郎



明けましておめでとうございます。皆様には希望に満ちた新春をお迎えることとお慶び申し上げます。

昨年は、米国のTPP離脱はあったものの日本・EU間でEPAが合意され、最大級の自由貿易実現に向けて大きく前進しました。また、フランスにおいては新政権がスタート、ドイツにおいても大連立に向けた動きが出てきています。しかしながら、暴走を続ける北朝鮮の核問題に加え、トランプ大統領の中東発言に端を発したテロの脅威が新たな国際問題となってきました。

国内では、森友学園や加計問題に絡んだ文書保存の問題、そして大手メーカーによるデータ改ざんなど、ものづくりの根幹を揺るがすような様々な問題が発覚しました。

国内では、森友学園や加計問題に絡んだ文書保存の問題、そして大手メーカーによるデータ改ざんなど、ものづくりの根幹を揺るがすような様々な問題が発覚しました。

経済の分野では、中国を始めとするアジア新興国などの経済の先行き、米国の法人減税、金融資本市場の変動の影響など、注視していく必要があります。

こうした中、私達縫製機械業界を取り巻く環境についても不透明感が否めません。

中国アパレル生産拠点の次として発展して来た東南アジア、南アジアのアパレル産業の市場動向には引き続き十分注意を払うべきだと考えます。

さて、今年の干支は「戌（いぬ）」です。「戌（いぬ）」の干支には、「勤勉で努力家」という特徴があるそうです。我が国が少子高齢化社会を迎えるといわれて久しいですが、私ども縫製機械産業も技術革新とそれを支える人材育成を図り魅力ある産業にしたいと考えております。今年の干支にあるように「勤勉さと努力」をもって企業そのものも新しい社会に適応していく必要があると感じています。

また、来月にはピョンチャンオリンピックが開幕します。最近の若手・ベテランの目覚ましい活躍を見ると各種目において日本

選手のメダルラッシュが大いに期待されます。

以下、当工業会の主な取り組みについてふれたいと思います。一つはJIAM 2020 OSAKA「国際アパレル機器&繊維産業見本市」です。

会期を2020年5月20日（水）～23日（土）、場所をインテックス大阪4号館、5号館、6号館A（半館）、6号館Bとして、「次世代技術と匠の技のコラボレーション ～JIAMから発信～」をテーマに開催いたします。JIAM展としては、12回目となります。昨年開催された5月のTexprocess 2017、9月のCISMA 2017に於いて、海外勢の技術が日本企業にとり脅威となるまで成長してきていることが感じられ、当展示会をこれまで以上に「日本の最新技術を発信する場」として、「課題解決やカイゼン活動に取り組んできた匠の技術」と「最新技術」を融合・協働することで、新たな付加価値を生み出した次世代の製品やシステムをご覧いただける展示会を目指す所存です。

本年5月から出展募集を開始いたしますので、日本の縫製機械業界の皆様からの積極的な参加に加えて、アパレル・繊維業界そして関係官公庁の皆様方からのご支援、ご協力をお願い申し上げます。

また、ドイツ・フランクフルトにおいて開催されたTexprocess2017では、当工業会と会員企業4社でジャパンパビリオンとして出展し、出展企業様からは大変好評をいただきました。次回に向けて、本年（平成30年度）から出展募集を開始いたしますので、多数のご参加をお願いいたします。

二つ目は、家庭用ミシンを使った『ものづくり』の普及促進に関することです。この活動の中心となる本年の第38回「ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール」では、新たな試みとして高校生を対象にインターネットを使った写真選考を取り入れましたが、中学生の学校数と応募点数は増えたものの、応募学校数597校（前年632校）、作品数4,120点（前年4,478点）となりました。応募作品は、いずれも素晴らしい出来栄の力作やアイデア溢れる個性的な作品です。関係された先生、学校

関係の皆様方のご協力を深く感謝いたします。

表彰式は、来る3月3日(土)に開催します。私共としては、今後も本コンクールが、我が国の『ものづくり』文化のすそ野拡大、並びに将来のアパレル・ファッション・繊維産業を担う人材の育成に連なることを念願しております。

また、家庭用ミシンの普及促進の一環としてテーブルスカート(1,100円/枚)を製作し販売しておりますので、販売店などでご活用ください。

三つ目は、「縫製機械整備」技能検定に関することです。次回検定は、本年(平成30年度)に実施されます。当工業会では実技試験に向けた機種準備などを図り、「技能士ステッカー(500円/枚)」などの販売を通じて、受検者増に向けた広報活動を充実していく所存です。詳細は、当工業会ホームページをご参照下さい。

この他、平成28年7月より開始した「中小企業等経営強化法」に係わる「証明書」発行件数は、平成29年11月末時点の累計が会員で217件、非会員で130件の合計347件に達しました。期限は平成31年3月末日までとなります。なお、「生産性向上設備投資促進税制」に係わる「証明書」発行は、平成29年3月末機器設置分までが対象となっております。今後とも多くの会員企業や縫製機器メーカーのお役に立てるようご相談に応じてまいります。

最後になりますが、私共としては、本年も、会員企業間のコミュニケーションの更なる充実を図りつつ、経済産業省のご指導のもと、関係諸団体とも連携を密にし、当工業会の着実な運営と発展に向けて努力してまいります。

本年も皆様の一層のご活躍とご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

年頭に寄せて



平成30年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

安倍政権発足以来、名目GDPは50兆円以上増加し、正社員の有効求人倍率が1倍を超えるなど、力強い経済成長が実現しています。雇用は185万人増加し、昨年の春に大学を卒業した

皆さんの就職率は過去最高となっています。我が国として、『戦後最大の名目GDP600兆円』の実現に向け、この成長軌道を確認たるものとするためには、『生産性革命』と『人づくり革命』を力強く推し進めていくことが必要です。

欧米で端を発した第四次産業革命の波は我が国にも押し寄せ、日本のものづくり産業は大きな転換期を迎えようとしております。日本企業が生産性を向上し、競争力強化を図っていくためには、第四次産業革命への対応、すなわちロボット、IoT、ビッグデータ、AIなどの活用が不可欠です。そうした中、第四次産業革命による技術革新を踏まえた今後の日本が目指すべき産業の在り方の鍵を握るのが、「Connected Industries」です。

「Connected Industries」とは、様々な業種、企業、人、機械、データなどがつながることによって、新たな付加価値や製品・サービスを創出し、生産性を向上させ、高齢化、人手不足などの社会課題を解決することで、産業競争力の強化につなげていくというものです。これから未来に現れるチャレンジは、ますます複雑になることが想定され、単独のリソースでの解決は困難です。また、その変化のスピードも早く、待っているだけでは、世界の潮流に取り残されてしまいます。工場の機器の効率化、オープンプラットフォーム化やデータ連携、ロボットの活用を通じた工場全体の最適化の流れを見据え、世界最先端の産

経済産業省製造産業局

産業機械課長 片岡 隆一

業を目指して、皆様と一緒に、現場目線で取り組んで参ります。

一方でロボット化・自動化によって単に雇用を奪うのではなく、『匠の技』などの見える化による若い職員のスキル習得など、技能承継の取組も重要です。また、単純作業や重労働を省力化することで労務費を削減し、そのぶん、若者、女性、お年寄り、障害のある方などが働きやすくなるような働き方改革や、第四次産業革命を支える、ものづくりとITの双方に精通した人材の育成も重要です。即戦力を確保しながら、中長期的には、将来を担う人材をしっかりと育成できるような取組を我々も後押しして参ります。

こうした取組に加え、産業機械業界でも、中小企業の取引条件を改善するための自主行動計画を策定する動きが進んでおります。企業間取引においても、是非winwinな関係となるよう、この取組を産業界全体で進めて頂きたいと思っております。

我が国の経済・社会の発展は、ものづくり産業とともにあり、その中でも、産業機械産業は、明治以降、根幹を支える『土台』でありました。皆様の現場を熟知する知見は『日本の宝』です。IoTもAIもツールであり、優れた現場の知見を有する皆様が、それぞれの課題解決にどう活かしていくかが重要です。これらのツールを用いて、新たな発想やつながりを広げ、これまでの常識に囚われない大胆な試行錯誤と挑戦が進んでいくことを期待しております。

産業機械課としても、これからも皆様の『現場の声』を聞き、政策に生かしていきたいと考えておりますので、是非とも気軽にお声掛けください。

最後になりましたが、本年は、『明治150周年』という節目の年でございます。本年が皆様方にとってさらなる飛躍の年となりますように祈念いたしまして、新年の挨拶と代えさせていただきます。

新年賀詞交歓会開催される

当工業会の平成30年新年賀詞交歓会が、1月11日（木）午後1時30分から日本工業倶楽部3階大ホールにおいて開催されました。出席者は、経済産業省をはじめ各関係団体、報道関係、当工業会関係者を含め98名となり盛大に執り行われました。開会にあたり、当工業会の眞壁会長から次の挨拶がありました。

2大事業の一つのJIAM2020は、2020年5月20日（水）から23日（土）まで、インテックス大阪で、「次世代技術と匠の技のコラボレーション～JIAMから発信～」をテーマに開催する。現在、JIAM2020実行委員会で行き組み方を検討しており、本年5月から出展募集を開始する。二つ目の第38回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール」は、昨年同様に素晴らしい出来栄の力作や、デザイン性にあふれた個性的な作品が寄せられ、作品数4,120点であった。来る3月3日（土）に上位入選作品の表彰式を予定している。本年も会員相互のコミュニケーションの更なる充実を図り、関係諸機関とも連携を密にし、当工業会の着実な運営と発展に向けて努力してまいりたい。

続いて、ご来賓として出席された経済産業省製造産業局産業機械課 片岡課長殿から、会員企業におかれても「IoT」を活用した省力化工場、究極の世界最先端工場、日本国内のマザー工場として設備投資を進めて、より生産性の高い付加価値製品を製造し、労働力不足の解消の方策の一つとして対



応していただきたいと挨拶がありました。

その後、当工業会の美馬副会長（JIAM2020実行委員長）から、業界内で未来に向けた真剣な討議を重ね、IoT、AI、インターフェース共通化等に対する検討課題に対応していきたい旨挨拶後、乾杯発声が行われ和やかな雰囲気での歓談が行われました。最後に清原副会長から、業界として今後の将来を見据えてテーマを決めて横断的に進んでいきたい旨挨拶後、中締めが行われ盛況のうちに終了しました。



眞壁 八郎 会長



片岡 隆一 産業機械課長



美馬 成望 副会長



清原 晃 副会長

JASMAセミナーを開催

2017年（平成29年）11月29日（水）、14時より航空会館（東京都港区新橋）におきまして「JASMAセミナー」を開催しました。講師は日本貿易振興機構（ジェトロ）の海外調査部 課長代理 小林恵介氏で、「ASEAN地域のアパレル・繊維産業動向（ベトナムを中心として）」をテーマに講演を行い、ベトナムを中心としたASEAN地域のアパレル・繊維産業の動向、貿易及び投資動向等が説明されました。出席者は眞壁会長をはじめ会員関係者、プレス、事務局を含め8名が参加しました。



外部技術視察について

2017年（平成29年）12月1日（金）の午後、当工業会の技術第一及び第二委員会関係者等7名による外部技術視察を行いました。この事業は我が国の産業における最先端技術及び技術革新に関する現状を把握し、縫製機械産業の技術開発の参考とするため定期的に行われており、本年度は戸建住宅、賃貸住宅、都市開発、不動産他で建築業界をリードする大和ハウス工業株式会社の竜ヶ崎工場（茨城県龍ヶ崎市）を訪問しました。

同社の竜ヶ崎工場は、「環境配慮型工場D's SMART FACTORY（ディーズ スマート ファクトリー）」として環境技術の実証実験を行い、「環境に優しい工場」を提案しています。工場内で使用しているエネルギー量や太陽光発電システムによる発電量等を“見える化”から、作業環境や生産状況、防災などのデータを多くの人の目に触れさせる“見せる化”へと進化させ、職場での意識改善につなげて

いました。平成24年度、25年度の省エネ大賞「経済産業大臣賞」を2年連続で受賞しており、環境へ配慮した取り組みに対して参加者は高い関心を示し有意義な時間を過ごしました。



第38回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール入選作品決定

全国の小学生、中学生、高校生を対象に実施した第38回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクールは、応募校数は597校（前年632校）、応募点数は4,120点（前年4,478点）でした。厳正な審査の結果、入選作品などが次のとおり選ばれました。

入選作品表彰式は、2018年（平成30年）3月3日（土）、13時30分より日本工業倶楽部（東京都千代田区丸の内）で執り行います。なお、入選作品等の詳細につきましては、後日、会員及び報道機関向けにお知らせします。

1. 作品賞

- 最優秀賞 5点
- 優秀賞 25点
- アイデア賞 3点
- 佳作賞 29点
- 努力賞 175点
- 全国ミシン商工業協同組合連合会技術賞 1点
- 審査員特別賞 1点

2. ホームソーイング振興最優秀校賞

小学校、中学校、高等学校 各1校

編集後記

2018年に入り強烈な寒波が日本列島を覆い、日本各地で記録的な寒さになり、全国的に冷え込む年明けとなりました。2月は平昌五輪が開催され、メダル候補の日本選手団の活躍が期待されます。

当工業会は本年5月からJIAM2020の出展募集を開始しますので、引き続き皆様のご支援、ご協力をお願いします。寒い日が続きますので、お体をご自愛いただきお過ごし下さい。

(K.M.)

JASMA 会報

Vol.14 No.4 2018年1月31日発行

一般社団法人日本縫製機械工業会
発行責任者：湯原 孝志

〒105-0004
東京都港区新橋5-25-3 第2一松ビル2階
TEL. 03-6435-8190 FAX. 03-6435-8192

URL <http://jasma.or.jp>
Eメール info@jasma.or.jp

本JASMA会報は、当工業会ホームページに掲載しております。